

〈特別寄稿〉

## 『法雲山遠露寺細草檀林』の刊行に想う

大本山鷲山寺貫首 佐藤 日賢

古山豊氏編著の「法雲山遠露寺細草檀林」を拝読し、大変嬉しく存じます。本著が世に出るについては、私の知る所もあり、この際、それを記録しておくことが必要ではないかと考え、筆を執った次第です。

私は昭和四十七年に法華宗興隆学林本科を卒業し、三光寺住職を拜命し、加えて鷲山寺第九十四世日彰猊下より出来立ての鷲山寺庫裏の留守番役として採用されました。学林開校中は学林で勉学に励むようにとのことでしたので、研究科に進み、卒業させていただきました。その間、先師上人より鷲山寺にまつわる行事や伝統について多くのご教示を賜りました。

かつて、鷲山寺本山講は九十九里浜一帯を地域ごとに分けそれぞれ講元を置き、宗派を超え、活発な信仰活動が行われていました。これが鷲巢門徒四千戸と言われるゆえんで、源は細草檀林によるものだと考えます。

私は昭和四十八年には春彼岸の頃、数十軒から百数十軒をまとめている講社に出向き、講元の案内で各家にお参りをさせていただき開山忌のご案内をいたしました。開山忌御逮夜には講社席をつくり、夜通し御開山を偲ぶ多様な行事が行われました。しかし残念ながら、現在は当時の講社の多くは途絶えてしまっています。

さて、今から二十数年前に、大網白里市の要行寺住職安川日晃聖人より住本寺住職高橋真純師に「この古文書

は『細草檀林由来書』で住本寺に保存するのが良い」と謄本を渡されたことがありました。そこで高橋師は、翌年早春に檀家の古山豊氏を訪ね、古文書の解説を依頼したのです。

古山氏は一年ほどで原文を解説され、原文と解説分を対比表示した『細草檀林由来書』を編纂し、それを住本寺に納められました。残念ながら、その日付等は今から二十年ほど前のことで、委細は不明です。

その後、古山豊先生はご自身の生まれ育った細草地域の歴史を考える中で檀林の重要性を認識され、それを後世に伝えようと『法雲山遠霽寺細草檀林』を編纂刊行されたものと考えております。編者の郷土への熱い思いが伝わるこの冊子は、永く後世に引き継がれるべきものであり、地元の人々の誇りともなるものです。鶯山寺に於いても高く評価しており、寺史にも加えたいと考えています。

さて、住本寺は私と仏縁が多い寺で、昭和五十年秋、森日彰猊下より住本寺住職就任の話を頂きましたが、入山を前に父信隆寺住職日義上人が脳卒中により遷化。住本寺住職の就任は儻く消えましたが、信隆寺第四世住職に就任させていただいた私は、恩に報いたいと弟良純・正純二人を得度させました。続いて良純の友人である二十歳の高橋真氏に出会い、縁あって我が弟子として得度、僧名は真純でした。この真純師は、十年間に渡り学林での勉学及び大阪藤井寺、同谷町妙法寺での修養を積み、宿縁会って住本寺住職に就任となりました。真純師はことあるごとに私に相談を持ち掛けてくれたので、住本寺の動向がよく伺い知ることができました。それで『細草檀林由来書』のことも知ったのです。然し高橋真純師は晩年数年来の闘病生活となり、主治医から余命半年ほどと診断されたのです。真純師からは、是非後進の住職選定をお願いしたいと申し出がありました。しかも顔を見て死にたいとのこと。いささか困惑しましたが、たつての願いに沿うように努力すると伝えました。後任を探すについては一任されましたが、私としてはもっと生きて欲しいとの思いが強くなりました。しかし残念ながら

生前中には間に合わず、住職歴三十年余りを以て、平成二十七年五月十六日に遷化されました。後任には、かねてより最適と考えていた学林卒業間もない渡邊寿雄師を選任し、師匠である妙経寺住職渡辺明博上人の快諾を得て、速やかに住職就任の運びとなりました。前任職の三回忌には「法雲山遠霑寺細草檀林」が発刊、その二ヶ月後には同書第二刷が発行され、故高橋真純師の思いが実ったわけです。当住職渡邊寿雄上人は前任職の住本寺に對する思いを引継ぎ、地域の発展にも寄与されることと大いに期待するところであります。

この度「法雲山遠霑寺細草檀林」の御発刊を機に、古山豊先生が「興隆学林紀要」で御論攷を発表されることとなり、本書刊行の経緯について少しく述べる御縁を頂きました。この場を借りて、「法雲山遠霑寺細草檀林」の刊行に際し多大な労力を厭わず編纂されました古山豊先生の情熱と熱意に深く敬意を表し、今後のご活躍を祈念するものであります。本書を読まれる方々のご参考にもなればと、刊行に至る経緯を記しましたが、志半ばにして遷化した我弟子高橋真純師も、靈山浄土で喜んでいることと信じます。

合掌